

2016年3月期第2四半期 決算説明会

日本通運株式会社

I. 経営状況	P. 1-
II. 外部環境の変化	P. 11
III. 経営計画の進捗状況	P. 12
IV. 2016年3月期通期の業績予想	P. 13-
V. M & Aについて	P. 21

2015年10月30日

I. 経営状況



A. 2016年3月期第2四半期決算の概要

1) 概要（連結）

（単位：億円、％）

	2016/3期 上半期実績 ①	2015/3期 上半期実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②	増減率 (前年比) ④=③÷②×100	上半期予想 (5月8日発表) ⑤	差額 ⑥=①-⑤	率 ⑦=①÷⑤ ×100
売上高	9,532	9,192	340	3.7	9,730	△197	98.0
営業利益	231	202	29	14.5	230	1	100.5
経常利益	276	250	26	10.6	280	△3	98.8
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	152	160	△8	△5.3	165	△12	92.2

（億円未満切捨て）

2) 連結経営指標

第2四半期累計

（前年同期実績）

・売上高営業利益率	2.4%	(2.2%)
・売上高経常利益率	2.9%	(2.7%)
・ROE	5.7%	(6.4%)
・ROA	2.1%	(2.3%)

I. 経営状況



B. 財政状態

(単位：億円)

	2016/3期上半期	2015/3期	増減
総資産	13,998	14,536	△537
自己資本	5,351	5,319	32

C. キャッシュ・フローの実績

(単位：億円)

	2016/3期上半期 実績 ①	2015/3期上半期 実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②
営業活動によるキャッシュ・フロー (A)	118	211	△93
投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△181	△185	3
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	△63	26	△89
財務活動によるキャッシュ・フロー (C)	△177	△93	△83
現金及び現金同等物に係る換算差額 (D)	△4	△16	11
現金及び現金同等物の増減額 (A+B+C+D)	△245	△83	△161
現金及び現金同等物の期首残高	1,489	1,259	230
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	-	1	△1
現金及び現金同等物の期末残高	1,243	1,177	66

◇財政状態

総資産は、投資有価証券や建物の減少等により、対前年度末537億円、3.7%減少。

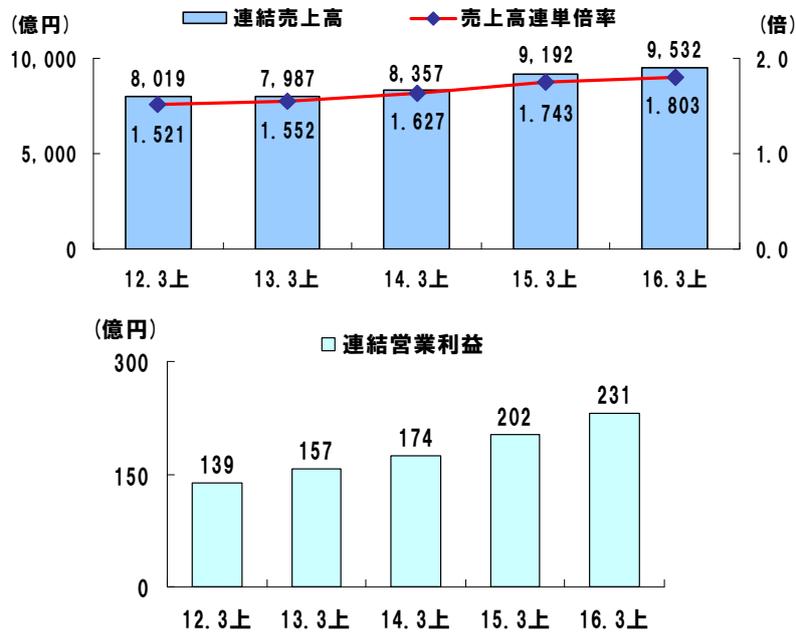
◇キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の2015年9月末残高が、対前年度末245億円減少し、1,243億円。

I. 経営状況



D. 直近5年間の売上高、営業利益の推移



Copyright © 2015 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2016年3月期第2四半期決算説明会資料

3

◇売上高の推移

対前年340億円、3.7%増加。

「重量品建設」セグメントや海外セグメントが好調を維持したこと、日通NECロジスティクス社の新規連結効果により、「その他」セグメントが大きく伸長。

◇営業利益の推移

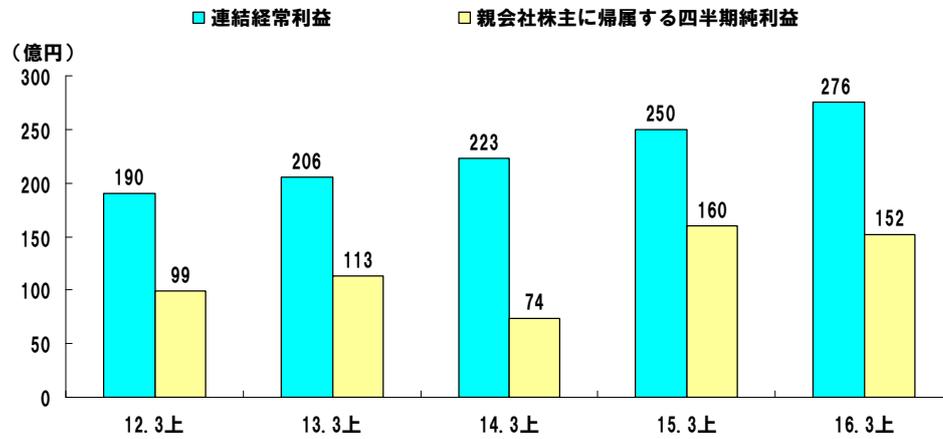
対前年29億円、14.5%増加。

料金改定の効果や燃油費単価下落の影響により、前年対比で「複合事業」セグメントが大きく改善。「重量品建設」セグメントと海外セグメントが伸長。

I. 経営状況



E. 直近5年間の経常利益と親会社株主に帰属する四半期純利益の推移



◇経常利益の推移

対前年26億円、10.6%増加。

◇親会社株主に帰属する四半期純利益の推移

対前年8億円、5.3%減益。

固定資産処分損が前年に比べ24億円増加。

前年に「米国集団訴訟関連引当金」の発生に伴う特別損失を33億円、投資有価証券の売却による特別利益を51億円計上。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

1) 複合事業

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(5/8発表)対比			
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	3,637	3,655	△18	△0.5	3,660	99.4	△22
	セグメント利益	87	64	23	35.6	92	94.9	△4
2Q単四半期	売上高	1,832	1,846	△14	△0.8	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	47	38	8	20.7	2.6(2.1)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・9月に鉄道取扱、トラック輸送、倉庫の荷動きが低迷 ・料金改定の効果や燃油費単価下落の影響が継続し、増益を確保 						

2) 警備輸送

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(5/8発表)対比			
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	272	276	△4	△1.6	278	97.9	△5
	セグメント利益	6	3	3	78.0	5	121.0	1
2Q単四半期	売上高	135	138	△2	△1.9	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	1	0	1	210.6	1.4(0.4)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の不採算業務から撤退したことにより売上げは減少したものの、利益率が改善し、増益 						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇複合事業・・・減収、増益

期末における輸送需要の高まりが期待された9月は、天候不順に見舞われたことに加え、営業日数減やシルバーウィークの影響を受け、鉄道取扱いやトラック輸送、倉庫の荷動きが低迷。

料金改定の効果や燃油費単価下落の影響が継続し、増益を確保。

◇警備輸送・・・減収、増益

4月以降、一部の不採算業務から撤退したことにより売上げは減少したものの、利益率が改善し、当・第2四半期においても、増益。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

3) 重量品建設

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比			業績予想(5/8発表)対比		
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	275	246	29	11.8	257	107.1	18
	セグメント利益	16	11	5	44.6	11	140.2	4
2Q単四半期	売上高	138	118	20	17.1	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	7	5	1	34.8	5.3 (4.6)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・マレーシア、ベトナムでの大型プラント工事が順調に売上げを伸長 ・国内では、風力発電関連の取扱いが堅調に推移 						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇重量品建設・・・増収、増益

海外においては、当第2四半期もマレーシア、ベトナムでの大型プラント工事が順調に売上げを伸長。

国内においては、風力発電関連の取扱いが堅調に推移。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

4) 航空

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(5/8発表)対比		
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	905	918	△13	△1.5	939	96.4	△33
	セグメント利益	21	25	△3	△15.0	27	79.6	△5
2Q単四半期	売上高	460	475	△15	△3.3	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	15	19	△3	△16.3	3.5 (4.0)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・日本発輸出貨物の取扱重量が、前年比マイナスで推移 ・仕入単価の高止まりも継続し、減益 						

5) 海運

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(5/8発表)対比		
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	609	596	13	2.2	611	99.8	△1
	セグメント利益	33	29	4	13.9	32	103.2	1
2Q単四半期	売上高	304	303	0	0.0	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	14	13	0	1.7	4.7 (4.6)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出において、主に設備輸送関連が売上げを支えたが、内航における、燃油費単価下落が影響 ・海外引越の取扱いが、輸出入ともに好調を維持し、増益 						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇航空・・・減収、減益

米州向けの自動車関連、アジア向けの電子・電機関連の荷動きが低迷するなど、当第2四半期の日本発輸出貨物の取扱い重量は前年比マイナスで推移。

燃油サーチャージ下落も影響し、減収。

仕入単価は下落の傾向を示したものの、依然として高止まりの状況が継続し、減益。

一方、輸入は自動車関連の取扱い減少等で、件数は前年を下回ったが、

千葉県市川市のBILT-2を中心としたロジスティクス業務が好調を維持し、

増収。国内貨物は営業日数減の影響により、減収。

◇海運・・・増収、増益

輸出は当・第2四半期も米州向けを中心に設備輸送関連が売上げを支える状況が

継続。輸入は青果関連が振るわなかったものの、太陽光パネルや雑貨関連の取扱いが増加し、前年並みの売上げを確保。

海外引越は、輸出入ともに好調を維持し、利益を押し上げ。

一方、内航は燃油費単価下落に伴う収受額の減少などが影響し、減収。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

6) 米州

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(5/8発表)対比		
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	482	374	108	29.0	494	97.8	△11
	セグメント利益	27	17	9	57.0	22	122.0	4
2Q単四半期	売上高	245	191	54	28.2	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	13	8	5	72.0	5.7 (4.2)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・米国において、アジア向け航空・輸出フォワーディングが伸長 ・メキシコにおいて、自動車関連のお客様の設備増強に伴う、海運・輸入フォワーディング、倉庫配送が堅調に推移 						

7) 欧州

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(5/8発表)対比		
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	410	395	14	3.7	404	101.6	6
	セグメント利益	6	10	△3	△32.7	8	82.3	△1
2Q単四半期	売上高	207	198	9	4.6	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	2	5	△2	△46.8	1.4 (2.8)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・英国、ベルギーにおいて、自動車関連の航空・輸出フォワーディングが堅調に推移 ・オランダにおける電子・電機関連の倉庫配送が順調に売上げを伸ばした一方で、新規業務立ち上げに伴う初期費用の発生、ロシアでの経済低迷による荷動きの鈍化により、減益 						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容
「海外会社」の第2四半期は、4-6月期

◇米州・・・増収、増益

為替の影響を除いた、現地通貨ベースでも、増収、増益。

米国において、アジア向けの航空・輸出フォワーディングの取扱いが伸長したほか、米国内のトラック輸送も堅調に推移。

メキシコでは、自動車関連のお客様の設備増強に伴う、海運・輸入フォワーディング、倉庫配送業務が引き続き好調を維持。

◇欧州・・・増収、減益

為替の影響を除いた、現地通貨ベースの実績でも、増収、減益。

英国、ベルギーにおいて、自動車関連の航空・輸出フォワーディングが堅調に推移したほか、2015年1月から営業開始したオランダにおける電子・電機関連の倉庫配送業務が順調に売上げを伸長。

一方で、オランダでの新規業務立ち上げに伴う初期費用の発生とともに、ロシアでの経済低迷による荷動きの鈍化により、減益。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

8) 東アジア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(5/8発表)対比		
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	574	480	93	19.5	578	99.4	△3
	セグメント利益	5	7	△1	△20.0	9	60.6	△3
2Q 単四半期	売上高	291	250	40	16.3	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	3	3	△0	△12.8	1.2 (1.6)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・現地通貨ベースにおいては、減収、減益 ・中国では、自動車関連の調達物流の取扱いが伸長 ・香港等における航空・輸出フォワーディングの減少、中国における現地人件費の上昇等により、減益 						

9) 南アジア・オセアニア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(5/8発表)対比		
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	367	291	76	26.1	368	100.0	△0
	セグメント利益	8	6	1	26.1	5	148.5	2
2Q 単四半期	売上高	177	152	25	16.6	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	3	0	10.4	2.4 (2.5)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・現地通貨ベースにおいては、増収、減益 ・地域全体において、航空・輸出フォワーディングの取扱いが増加 ・一部地域において、コスト面の課題が残る 						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容
「海外会社」の第2四半期は、4-6月期

◇東アジア・・・増収、減益

為替の影響を除いた、現地通貨ベースでは、減収、減益。

中国では、自動車関連、電子・電機関連の航空・海運フォワーディングの取扱いが堅調に推移。自動車関連の調達物流の取扱いも、お客様の新工場建設に伴い売上げが伸長。一方、香港、台湾における航空・輸出フォワーディングの取扱い減少、中国における現地人件費の上昇などにより、地域全体では減益。

◇南アジア・オセアニア・・・増収、増益

為替の影響を除いた、現地通貨ベースでは、増収、減益。

フィリピン、タイをはじめとして、地域全体において航空・輸出フォワーディングの取扱いが増加。マレーシア、インドでは、海運・輸出フォワーディングが堅調に推移するなど、売上げは順調に伸長。

一方、シンガポールにおける航空利用費の上昇など、一部の地域においてコスト面での課題も残る。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

10) 販売

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(5/8発表)対比		
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	1,857	2,084	△226	△10.9	1,968	94.4	△110
	セグメント利益	31	27	4	14.9	31	102.4	0
2Q単四半期	売上高	926	1,062	△136	△12.8	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	17	12	5	45.1	1.9 (1.1)		
	概況	・石油類の販売単価下落により、減収となったものの、一定の利幅を確保し、増益						

11) その他

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(5/8発表)対比		
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	837	538	299	55.6	848	98.7	△10
	セグメント利益	6	7	△0	△4.7	9	72.9	△2
2Q単四半期	売上高	425	271	154	56.9	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	9	4	4	87.2	2.2 (1.8)		
	概況	・日通NECロジスティクスが、前年度第3四半期から連結子会社となり、増収、増益						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇販売・・・減収、増益

日通商事において、石油類の販売単価下落により減収となったものの、一定の利幅を確保したことなどから、増益。

◇その他・・・増収、増益

日通NECロジスティクス社が、前年度第3四半期から連結子会社となり、収入、利益の増加に寄与。

II. 外部環境の変化



増減要素

変動要素	連結（第2四半期累計）	参考
燃油費単価変動による影響	燃油費 $\Delta 33.2$ 億円 (費用減)	(前年同期) 軽油 : 91.00 円/ℓ (121.10円) ガソリン: 128.22 円/ℓ (152.98円) 船舶重油: 49.30 円/ℓ (73.22円)
為替による影響	売上高 + 167.3 億円 営業利益 + 4.9 億円	上半期平均為替レート(※) (前年同期) USD: 120.23 円 (102.47円) EUR: 134.17 円 (140.43円) HKD: 15.51 円 (13.22円) RMB: 19.32 円 (16.65円)

(※) 上半期平均為替レートは参考値。決算では四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用している。

III. 経営計画の進捗状況



日通グループ経営計画 2015 -改革と躍進- 基本戦略の進捗状況

基本戦略	項目	進捗状況
国内事業の経営体質強化	2016年3月期 国内複合事業営業利益率 3%	2016年3月期上半期実績 2.4% (2015年3月期実績 2.5%) (2015年3月期上半期実績 1.8%)
グローバルロジスティクス 事業の更なる拡大	2016年3月期 国際関連事業売上高比率 40%	2016年3月期上半期実績 37.0% (2015年3月期実績 34.7%) (2015年3月期上半期実績 33.5%)

◇国内複合事業営業利益率3%達成に向けて
引き続き、各種コストの削減に対する取組みを強化するとともに、組織改正を活かした
営業拡大に取り組む。

◇国際関連事業売上高比率40%達成に向けて
航空・海運のフォーワーディングを強化するとともに、海外においては、特に南アジアを
ターゲットに定め、更なる事業の拡大に努める。
その手段として、M&Aや戦略的業務提携も積極的に活用していく。

IV. 2016年3月期通期の業績予想



A. 連結業績予想（変更なし）

（単位：億円）

	2016/3期			2015/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	9,532	10,467	20,000	10,057
営業利益	231	308	540	306
経常利益	276	353	630	345
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	152	187	340	103

◇5月8日発表の連結業績予想を据え置き
各セグメントの業績見通しも変更せず。

IV. 2016年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況（変更なし）

1) 複合事業

（単位：億円）

	2016/3期			2015/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	3,637	3,794	7,432	3,767
セグメント利益	87	131	219	117
概況	・ 人件費、外注費など、費用のコントロールに注力			

2) 警備輸送

（単位：億円）

	2016/3期			2015/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	272	283	556	277
セグメント利益	6	6	13	4
概況	・ 不採算業務からの撤退により、売上は減少傾向にあるが、利益率の改善により増益			

◇複合事業

物量の大幅な増加が見込めないなか、人件費、外注費など、費用のコントロールに今一度注力。

オペレーション支援システムの活用などにより、更なる効率化を推進。

◇警備輸送

売上げは減少傾向で推移するが、利益率の向上により、増益を見込む。

IV. 2016年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況（変更なし）

3) 重量品建設

（単位：億円）

	2016/3期			2015/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	275	213	489	222
セグメント利益	16	6	22	10
概況	・マレーシアでの大型プラント工事がピークアウトした影響が出てくるが、通期では、売上げ、利益ともに堅調に推移する見込み			

◇重量品建設

マレーシアでの大型プラント工事がピークアウトした影響が出てくるが、通期では、売上げ、利益ともに堅調に推移する見込み。

IV. 2016年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況（変更なし）

4) 航空

（単位：億円）

	2016/3期			2015/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	905	1,051	1,957	1,188
セグメント利益	21	53	75	76
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・前年にあった特需の反動減は避けられない見込み ・輸出貨物における利用航空会社やルートの見直し、輸入貨物におけるオペレーション効率改善に努める 			

5) 海運

（単位：億円）

	2016/3期			2015/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	609	618	1,228	591
セグメント利益	33	24	57	19
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・設備輸送関連が継続し、輸出取扱いは堅調に推移する見込み ・輸入においても、太陽光パネルや雑貨関連を中心とした取扱いの拡大を見込む 			

◇航空

前年にあった特需の反動は避けられない見込み。

日本発輸出貨物の取扱い重量の推移を注視するとともに、利用航空会社やルートの見直しなど、輸出貨物の差益率を押し上げるための施策に鋭意取り組む。一方、輸入貨物についても、成田地区の拠点再稼動などにより、一層のオペレーション効率改善に努める。

◇海運

設備輸送関連が継続し、輸出取扱いは堅調に推移する見込み。

輸入も、太陽光パネルや雑貨関連を中心とした取扱いの拡大を見込む。海外引越は、輸出入とも引き続き好調を維持するとの見方。

IV. 2016年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況（変更なし）

6) 米州

（単位：億円）

	2016/3期			2015/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	482	499	982	417
セグメント利益	27	14	41	16
概況(3Q)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米国、メキシコにおいて、自動車関連の海運・輸入フォワーディング、航空・輸出フォワーディングが引き続き好調を維持 			

7) 欧州

（単位：億円）

	2016/3期			2015/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	410	439	850	440
セグメント利益	6	17	24	13
概況(3Q)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英国において、海運・輸入フォワーディングの取扱いが、オランダでは、海運・輸出フォワーディングの取扱いが堅調に推移 ・ オランダにおける新規の倉庫配送業務が売上げを伸長し、オペレーションの改善効果も徐々に顕在化 			

Copyright © 2015 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2016年3月期第2四半期決算説明会資料

17

◇米州

米国、メキシコにおいて、自動車関連のお客様を中心に、海運・輸入フォワーディング、航空・輸出フォワーディングの取扱いが、引き続き好調を維持。

◇欧州

英国において、海運・輸入フォワーディングの取扱いが、オランダでは、海運・輸出フォワーディングの取扱いが堅調に推移。
オランダにおける新規の倉庫配送業務も順調に売上げを伸ばし、オペレーションの改善効果も徐々に顕在化。

IV. 2016年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況（変更なし）

8) 東アジア

（単位：億円）

	2016/3期			2015/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	574	613	1,188	532
セグメント利益	5	16	22	11
概況(3Q)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国では、航空・海運の輸出入フォワーディング、自動車関連の調達物流の取扱いが、堅調に推移 ・ 香港における海運・輸出フォワーディング、台湾における海運・輸入フォワーディングの取扱いが減少 			

9) 南アジア・オセアニア

（単位：億円）

	2016/3期			2015/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	367	420	788	354
セグメント利益	8	3	11	2
概況(3Q)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海運・輸出フォワーディングの取扱いが堅調に推移 ・ 航空・輸出フォワーディングの取扱いは減少 ・ タイにおける、前年の重機建設関連の大型プロジェクトの反動減が影響 			

◇東アジア

中国では、航空・海運の輸出入フォワーディング、自動車関連の調達物流の取扱いが堅調に推移。しかしながら、香港では、海運・輸出フォワーディング、台湾では海運・輸入フォワーディングの取扱いが減少。
中国経済の減速の影響が懸念されている状況のなか、今後お客様の動向を注視していく必要がある。

◇南アジア・オセアニア

海運・輸出フォワーディングの取扱いが堅調に推移したが、航空・輸出フォワーディングの取扱いは減少。
タイにおける、前年にあった重機建設関連の大型プロジェクトの反動減が影響。

IV. 2016年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況（変更なし）

10) 販売

（単位：億円）

	2016/3期			2015/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	1,857	2,257	4,115	2,117
セグメント利益	31	33	65	36
概況	・石油類の販売単価下落の影響が継続見込み			

11) その他

（単位：億円）

	2016/3期			2015/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	837	922	1,760	897
セグメント利益	6	26	33	19
概況	・日通・パナソニック ロジスティクス社、日通NECロジスティクス社の商戦期における売上げが拡大見込み			

◇販売

下半期も、石油類の販売単価下落の影響が継続する見込み。

◇その他

日通・パナソニック ロジスティクス社、日通NECロジスティクス社の商戦期における売上げ拡大などを見込む。

IV. 2016年3月期通期の業績予想



C. 外部要因の前提

変動要素	連結業績への影響 (下半期)	前提条件
燃油費単価変動 による影響	燃油費 $\Delta 25.7$ 億円 (費用減)	(前期年間平均) 軽油 : 84.60円/ℓ (110.55円) ガソリン : 127.99円/ℓ (144.40円) 船舶重油 : 44.51円/ℓ (66.47円) 使用量は前年と同量と想定
為替による影響	売上高 +68.6 億円 営業利益 +2.8 億円	(前期年間平均(※)) USD : 119.40円 (105.85円) EUR : 130.90円 (140.42円) HKD : 15.40円 (13.65円) RMB : 19.20円 (17.19円)

(※) 年間為替レートは参考値。決算では四半期平均レートを、現地通貨ベースの四半期実績に適用している。

V. M&Aについて



M&Aによる成長スピードの加速 -産業別物流プラットフォームの確立に向けて-

対 象 会 社	株式会社ワンビシアークイブズ
代 表 者	代表取締役社長 村田 康弘
事 業 内 容	情報資産管理および保険代理店事業
資 本 金	40億円
大 株 主 及 び 持 株 比 率	株式会社豊田自動織機 100%
財 務 状 況	売上高(2015年3月期) 211億円 営業利益(2015年3月期) 45億円
取 得 後 の 所 有 株 式 数	日本通運株式会社 100%
取 得 価 額	ワンビシアークイブズ株式 860億円 アドバイザー費用等(概算額) 3億円 合計(概算額) 863億円
株 式 取 得 日	2015年12月15日(予定)

ワンビシアークイブズが当社グループの一員になることによって、社会インフラとしてのセキュリティ&ストレージプラットフォームの構築を加速させ、日本国内外において、より多くのお客様に新たな価値を提供していきます。

株式会社豊田自動織機の100%子会社である株式会社ワンビシアークイブズの全株式を取得することについて、豊田自動織機と合意し、株式譲渡契約を締結。株式取得日は、2015年12月15日を予定。

ワンビシアークイブズは、情報資産管理を主力事業とし、官公庁・金融機関・医療機関等の機密性の高い、極めて重要な文書、データの管理を担う。今後、更に成長拡大が期待される情報資産管理業界において、高度なノウハウを持ち、確固たる地位を築いている。

当社は、物流を通して社会発展の原動力となることを企業理念に掲げ、創業以来「社会インフラ」の一翼を担ってきた。ワンビシアークイブズが当社グループの一員になることによって、社会インフラとしてのセキュリティ・アンド・ストレージのプラットフォーム構築を加速させ、国内外において、より多くのお客様に新たな価値を提供。



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。